

平成29年度自己評価表

(様式1)

愛媛県立野村高等学校・本校 (42)

教育方針	豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和の取れた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成する。	重点目標	自己錬磨 ～ 夢に向かって鍛える生徒の育成 ～ 1 学校生活の基本的徹底を図り、地域から信頼される生徒を育てます。 2 意欲の喚起と授業の工夫で、自主的な学習態度を育てます。 3 確かな学力の定着を図り、希望する進路の実現を目指します。 4 地域との連携・交流を重視し、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てます。 5 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で逞しい人材を育てます。 6 読書や芸術に親しみ、豊かな感性や自己表現を育てます。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
P T A 活動	保護者への情報発信及び学校との連携の充実	PTA総会保護者参加30%以上を目指すとともに、PTA会報等を毎月発行する。	C	PTA総会の保護者参加は22%で、目標値の達成ができなかった。PTA会報の毎月発行は目標が達成できた。	PTA総会の議事に興味をもってもらえるよう、ホームページやPTA会報等をさらに活用し、早い時期からの広報活動を充実させる。また、生徒を通じた文書が確実に保護者に行きわたるよう徹底させる。
学習指導	家庭学習の充実	1日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。	C	調査発表期間中に1日3時間以上家庭学習時間を確保した生徒の割合は、1年生34.9%、2年生43.5%、3年生61.3%となっており、昨年度に比べて大幅に減少した。	今年度の反省をふまえて、学習に取り組む姿勢の確立と家庭学習の実践を、各クラス、部活動等において強力に指導してもらえるように働きかける。
	教科指導の充実	皆勤率学年平均60%を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細かな指導により、学力の向上を図る。	B	学年末の皆勤率は、1年生43.5%、2年生55.2%、3年生64.2%で、3年生は目標値を達成できた。学年が進むにつれて自己管理能力も高まっていることがわかる。	昨年的人数と比較すると、各学年とも皆勤率が減少しているのが問題である。1年間を通して、少々のことでは休まない精神力を身につけるよう、各クラス、部活動等において強力に指導してもらえるように働きかける。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、身だしなみの徹底、交通安全の推進により、校内外での事故・事件・違反ゼロを目指す。	A	心のこもった挨拶については、概ねできている。身だしなみについても、平均95%以上の合格率を保ち、大きな乱れもなく、学校生活が過ごせた。事故、事件、いじめに関しても発生は0件である。	生徒会等が中心となって、心のこもった挨拶運動を継続させる。家庭と学校がさらに連携し、身だしなみ合格率97%、事故・事件0件、いじめ0件を目指す。
特別活動	自主的活動の充実	県総体出場100名を目指すとともに、ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。	B	県総体出場100名で、目標値の達成はできなかった。しかし、部員減少の中で健闘している。部活動と勉強の両立について、学習時間に配慮した指導が必要である。	部活動の指導について、約25%の保護者が「学習時間に配慮が足りていない」と感じており、改善の必要がある。また、生徒会活動においても、一層の盛り上げを図るために、生徒の主体的な活動を支援する必要がある。
進路指導	進学指導の充実	進学目標達成の満足度100%を目指す。	A	進学者満足度調査の結果により、満足とほぼ満足に合わせて100%が達成できた。	生徒に早期から高い目標を持たせ、受験に対して十分に時間を掛けて備えさせるとともに、3年間を見通した進学指導を進める。
		難関大及び国公立大15名以上の合格を目指す。	C	国公立ブロック大学（岡山大学）に合格者を出せたが、合格者総数としては昨年度並みで15名には届かなかった。	難関大学や国公立大学に進学する意義を理解させ、センター試験受験者数を増加させるとともに、多様な選抜方法も活用して合格者数を増やす。
	就職指導の充実	卒業時の内定率100%を目指す。	A	求人数の増加を追い風に、全員の内定を得た。	生徒一人一人の能力を最大限に伸ばし、自らの職場選択・決定に必要な知識や態度をさらに身に付けさせる。
保健管理	保健管理の充実	毎日の健康観察や毎月の安全点検・報告により、安全意識を高め、日本スポーツセンター申請件数減を目指す。	A	健康観察や安全点検は、確実に実施することができた。日本スポーツ振興センター申請件数は、昨年度と比較して、4分の1に減少した。	今後も関係者が連携し、設備の確認や安全点検に努める。日本スポーツ振興センター申請件数の減少を目指し、生徒の実態把握に基づいた、部活動の指導を心がけるよう継続的に呼びかける。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
読指導	図書館指導の充実	図書館外貸出冊数、一人平均年間5冊以上を目指す。	B	学年末現在、図書館外貸出冊数一人平均6.3冊である。	次年度も委員会活動を通じて、読書推進活動を積極的に行い、読書指導を充実させる。
情教報育	ホームページの充実	ホームページをタイムリーに更新するとともに、個人情報保護に努める。	B	タイムリーにホームページのアップができた。	さらに内容の充実や、本校の独自性を高められるような発信に努める。
教相育談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	B	1年生への関わりを中心に、不登校の状態が長期化しないよう、担任や各方面と連携することができた。	担任、保護者と連携し、生徒の実態把握に努めるとともに、年度当初（5月）の面接時間の十分な確保を図る。今後も、生徒が抱える問題改善に向け、スクールライフアドバイザーとの連携を密にし協力体制を充実させる。
特別教育	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。	B	生徒・家庭の実態を把握し、関係者で情報の共有ができた。また、学校生活の円滑化を図るための支援ができた。	今後も、生徒・家庭の実態把握に努め、学校生活の円滑化を図るための積極的な支援を行う。
同和・人権教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。	B	人権委員研修は年間4回の実施で、目標を達成できなかったが、人権委員の意識は高まった。また、いじめフォーラムに2名が参加し、意見交換を行うことで人権問題に対する関心を高めることができた。	人権委員会での活動を全校生徒に知ってもらう取組や、人権委員会からのメッセージを発信する機会をさらに増やし、活動を活発化させる。また、校外での行事等に積極的に参加し、人権意識を高めさせる。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を5名以上育てる。	B	農業の担い手は3名で、目標を達成することができなかった。	後継者育成だけでなく、地元に残る人材の育成にも取組む必要がある。そのためにも、キャリア教育の充実を図る。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各大会で優秀賞1つ以上、全国大会で優秀賞1つ以上を目指す。	A	全国大会 農業鑑定競技 畜産の部 優秀 県大会 家畜審査競技 乳牛の部 優秀 " 和牛の部 優秀 " 総合の部 優秀 意見発表 I類 優秀(2) " III類 最優秀・優秀 フワデザン競技 優秀 えひめ地域づくりアワード・ユース2017	全国大会の鑑定競技において、2年ぶりに入賞を果たすことができた。継続して入賞をさせる対策として、校内大会の充実と農業技術検定への積極的な取組を図る。 各種競技・発表大会で活躍させるために、校内大会の充実を図る。
寮務	基本的な生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を細かく行い、寮内での事故をゼロにする。	B	舎監の先生方の協力により、目立った事故等もなく生活をさせることができた。しかし、点呼に遅れたり、食事表への記入を忘れる生徒がいた。	今後も、寮内での事故ゼロを達成するために、関係者と連携し運営に携わる。また、日々の清掃活動や集団生活をとおして、規則の遵守と基本的な生活習慣の確立を目指す。
施設管理	教育環境の整備充実	生徒の安全を第一に考え危険箇所等の早期発見、早期改修に努める。	B	破損及び改修する箇所等があれば、教職員の早期発見により、生徒の安全を第一に考えつつ、すみやかに改修することができた。	生徒の安全を第一に考え、定期的に校内巡視を行う。また、危険箇所等の早期発見に努め、早期の予算措置を講じ、改修に努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。